

第16回 周南市美術展2018 目録

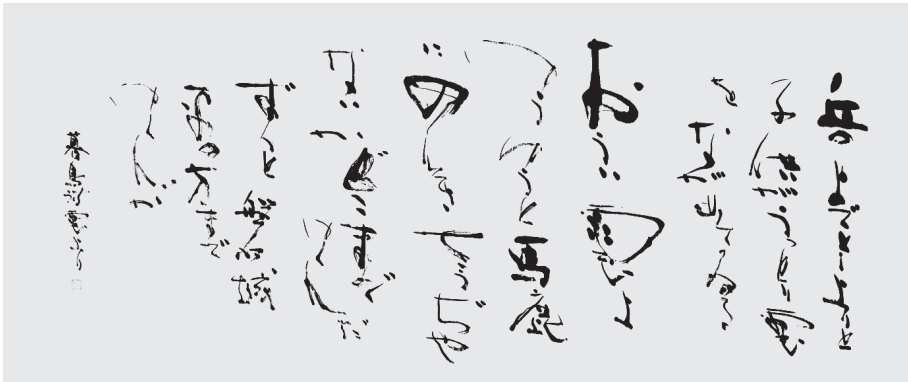
会場 周南市美術博物館

前期 平面・立体 平成30年10月10日(水)～10月14日(日)

後期 書・写真 平成30年10月17日(水)～10月21日(日)

9時30分～17時

市美展大賞・準大賞作品は、前期・後期通じて展示します



市美展大賞 書 「雲」 藤井 宗男

主催 周南市

主管 周南市美術展運営委員会

後援 周南文化協会

協力 周南書道連盟 周南陶芸連盟 周南美術連盟 周南手工芸連盟 周南水墨画連盟
周南写真連盟

第16回周南市美術展2018 審査員紹介

平面の部

なかむら みゆき
中村 美幸（下関市立美術館館長） 1959年生

山口大学人文学部人文学科（美学美術史）卒業（1982年）

準備室を経て1983年から下関市立美術館勤務

「竹久夢二と日本のアール・ヌーボー」を企画担当、「贈答の美 袱紗展」「絵で読む宮沢賢治展」のほか、絵本展を中心に展覧会を担当

おだ よしろう
小田 善郎（画家） 1951年生

福岡教育大学卒業（1975年）

山口県美術展最優秀賞受賞（1987年）、山口県芸術文化振興奨励賞受賞（1988年）、第32回安井賞展入選、第22回西日本美術展大賞受賞（1989年）、第9回現代日本絵画展入選（1990年）、第1回青木繁記念大賞展入選（1992年）、英展出品（田川市美術館、1995年）、西日本美術展歴代大賞作品展出品（1997年）、第14回青木繁記念大賞展わだつみ賞受賞（2005年）、「小田善郎作品展～子ども、そして彼方へ～」(周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館、2008年)、「東日本大震災復興支援文化財レスキュー・チャリティ・カレンダー」作品参加（2011年）、やまぐち煌めきアーティスト展（シンフォニア岩国、2012年）、第68回山口県美術展覧会大賞（2014年）、FACE2015損保ジャパン美術賞展入選（2015年、2017年同展入選）、第69回山口県美術展覧会特別展示（山口県立美術館、2015年）、「小田善郎作品展～コードモドコ」(周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館、2018年)、「小田善郎展」(長登銅山文化交流館、2018年)、「小田善郎展」(広島県安芸高田市立八千代の丘美術館、2018年)

立体の部

よし か はたお
吉賀 将夫（陶芸作家） 1943年生

東京芸術大学大学院修了（陶芸専攻）（1969年）

山口県美術展（文部大臣奨励賞1975年、特別賞1978年）、山口大学助教授（教育学部）（1976年）、日本現代工芸美術展（会員賞1979年、NHK会長賞1983年）、山口県芸術文化振興奨励賞（1979年）、日展（特選1983・1985年、文部大臣賞1996年）、現代工芸美術家協会会員（1978年）、現代工芸美術家協会理事（1988年）、日展会員、山口大学教授（1990年）、日展評議員（1996年）、山口県選奨（芸術文化功労者）（1996年）、日本芸術院賞（2000年）、日展理事（2000年）、中国文化賞（2001年）、山口大学名誉教授（2006年）

むらなか やすひこ
村中 保彦（金工作家） 1955年生

東京芸術大学大学院美術研究科鑄金専攻修了

修了制作がサロン・ド・プランタン賞（1982年）、日本新工芸展東京都知事賞（1987年）、現代鑄金工芸展鑄金家協会賞（1988年）、金沢工芸大賞コンペティション大賞（1993年）、神戸須磨離宮公園現代彫刻展埼玉県立近代美術館賞（1998年）、第18回現代日本彫刻展山口県立美術館賞（1999年）、桜の森彫刻コンクール優秀賞（2002年）、山口県芸術文化振興奨励賞（2002年）、「村中保彦金工展一器からオブジェまで」(周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館、2009年)、第23回現代日本彫刻展山口県立美術館賞（2009年）、第38回長野市野外彫刻賞（2011年）、第27回UBEピエンナーレ出品（2017年）

現在、日本鑄金家協会会員

書の部

のぶひろ ともえ
信廣 友江 (安田女子大学文学部書道学科教授・書家) 1952年生

安田女子大学文学部卒業 (1975年)、神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程修了 (2007年)、博士 (学術) (2007年)

書学書道史学会理事・諮問委員、第4回新県美展 (第68回広島県美術展) 審査員 (2016年)、世界書芸全北ビエンナーレ (韓国) 招待作家 (2009年)

著書に、『国民学校「芸能科習字」』 (出版芸術社 2006年 単著)、『占領期小学校習字』 (出版芸術社 2011年 単著)、『茶掛を読む (弐) 墨跡』 (講談社 1997年 共著)、『茶掛の一行書』 (講談社 1999年 共著)、『書学挙要』 (藝文書院 2001年 共著)、『マンガ書の歴史 (殷～唐)』 (講談社 2004年 共著)、『マンガ書の歴史 (宋～民国)』 (講談社 2005年 共著)、『岩波世界人名大辞典』 (岩波書店 2013年 共著) など

すみ ひろゆき
角 廣行 (書家) 1951年生

大東文化大学中国文学科卒業

元早稲高等学校教頭 (2012年3月退職)、元読売書法会理事 (2013年退任)

日展入選4回、下関市芸術文化推興奨励賞受賞

現在、書法研究墨美主宰、下関書道連盟会長、下関市文化協会副会長

写真の部

わかまつ ふみこ
若松 布美子 (写真家) 1973年生

九州産業大学大学院芸術研究科写真専攻卒業 (1997年)

第2回国際写真ビエンナーレ企業賞受賞 (1997年)、秋山写真工房フォトコンテスト大賞 秋山賞受賞 (1999年)、西日本新聞「21世紀 鏡」連載 (2001年)、第2回上野彦馬フォトコンテスト 大学賞受賞 (2001年)、九州産業大学芸術学部写真学科講師 (2006～2010年)、博多織プロモーション計画 教育功労賞受賞 (2010年)

「消滅する時空」 (2015年 ニコンプラザ新宿/ニコンプラザ大阪/ニコンサービスセンター福岡/ニコンプラザ名古屋)、「W-Select」 (2015年 熊本デザイン専門学校) など個展、多数開催

ふな お おさむ
船尾 修 (写真家) 1960年生

筑波大学生物学類卒業

『アフリカ 豊饒と混沌の大陸 (全2巻)』、『UJAMAA』、『循環と共存の森から』など著書・写真集多数

写真集『カミサマホトケサマ』で、第9回さがみはら写真新人奨励賞受賞、第18回林忠彦賞最終候補 (2009年)

写真集『フィリピン残留日本人』で第25回林忠彦賞、第16回さがみはら写真賞をW受賞 (2016年)

最新刊に『カミサマホトケサマ 国東半島』

平面 出品数118 (市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞24・入選62)			
No.	タイトル	氏名	賞
1	睡蓮	小西 美佐江	市美展準大賞
2	周南工場地帯	橋本 美保子	市美展賞
3	紋	原田 勝造	市美展賞
4	記憶	玉井 みはる	市美展賞
5	記憶の森	徳原 貴美子	市美展賞
6	のうげんかずら	原田 富士子	市美展賞
7	TOKYO2020 ゴールドの壁	渡邊 俊行	奨励賞
8	Black hole	森口 須美恵	奨励賞
9	アイスタイム	蔵田 省三	奨励賞
10	緑に光る	大川 たつみ	奨励賞
11	生まれてきてありがとう	竹下 和子	奨励賞
12	すすきに鳥	東島 晋	奨励賞
13	希望をつかめ	三宅 恵子	奨励賞
14	あなたに	大熊 俊雄	奨励賞
15	二つの季節	由本 正文	奨励賞
16	公園	藤井 美彦	奨励賞
17	岸辺の風景	田辺 豊和	奨励賞
18	春がきた	吉田 裕子	奨励賞
19	トルコ・エフェソス	佐々木 祥子	奨励賞
20	とき	神田 千代子	奨励賞
21	梟袋	中股 恵子	奨励賞
22	女流画家の涙	三宅 司郎	奨励賞
23	ターシャの庭	金本 寛子	奨励賞
24	少し先へ	長合 香奈	奨励賞
25	水辺のチューリップ	森原 宏恵	奨励賞
26	誕生花	河谷 千穂	奨励賞
27	スプリット旧市街の夕暮れ (クロアチア)	升 節子	奨励賞
28	いつも心の中に…	小田 妙美恵	奨励賞
29	人木	田嶋 杏菜	奨励賞
30	なかよしくん (2)	林 邦子	奨励賞
31	奏でる	河村 祥子	入選
32	Izanami of the future	森口 須美恵	入選
33	生命の連鎖	杉本 由子	入選
34	原爆：熱線に耐えたユウカリの木	松原 セツ子	入選
35	冬の陽ざし春を待つ	細山田 洋子	入選
36	ポジャギ (韓国)	佐藤 ミナエ	入選
37	春風のエール	安本 恵子	入選
38	孔雀	上野 拓真	入選
39	コンビナート	大川 たつみ	入選
40	にっぽん丸	尾崎 眞吾	入選
41	藤の花	藤井 剛	入選
42	たんぽぽ	藤井 剛	入選
43	想いでヴェネツィア	若林 奉之	入選
44	鳳凰	村河 英樹	入選
45	陶芸をする人	中島 悦子	入選
46	追憶	吉村 るり子	入選
47	風景	出島 俊二	入選
48	モスクワの朝	後藤 武司	入選
49	街角のコーヒーショップ	安澤 幸枝	入選
50	ポーランドからの木彫おじさん (since 2000)	秋貞 啓子	入選
51	小春日 (井仁の棚田)	藤井 和彦	入選
52	静かな時	橋野 一枝	入選
53	秋の予感	橋野 一枝	入選

No.	タイトル	氏名	賞
54	作品I	津田 鈴子	入選
55	た・か・ら・も・の	久村 ゆかり	入選
56	激闘	村井 日出生	入選
57	聖夜	高橋 敬子	入選
58	錦秋（西緑地）	福永 邦子	入選
59	海鳥家族	米本 豊弘	入選
60	月下美人競咲き	米本 豊弘	入選
61	松雲仙實	國弘 具子	入選
62	早朝の静けさ	神田 千代子	入選
63	マンドリンの男	恵村 正昭	入選
64	ネパールのお婆ちゃん	門出 奈津子	入選
65	蓮	清水 ミヨ子	入選
66	ローマ コロッセオ	清水 ミヨ子	入選
67	高土観瀑	岩武 哲	入選
68	口内環境	齊藤 遥奈	入選
69	アケビ	玉野 淑子	入選
70	春景図	兼安 正人	入選
71	新生	池田 郁子	入選
72	初めての夏	福谷 佳子	入選
73	仁和寺の中門	原 公亮	入選
74	フェルマータ（小休止）	新原 美奈子	入選
75	松下琴客図	友澤 康彦	入選
76	シラビソ樹林の道しるべ	津山 義秀	入選
77	なぎさ	大下 ゆり子	入選
78	のどかなみたらい湾と船溜り	山野井 三郎	入選
79	ぶらり錦帯橋風景	山野井 三郎	入選
80	秋思	吉村 佑一	入選
81	追っかける影 2才児	秋本 町子	入選
82	家族の絆	秋本 町子	入選
83	小畑の棚田	高橋 功夫	入選
84	地球が叫ぶ	岡 明代	入選
85	こどもの情景ーぎったんばったんー	松浦 清子	入選
86	野菜の集い	橋本 恵子	入選
87	バレリーナ	味本 貴子	入選
88	なかよしくん（1）	林 邦子	入選
89	ニャンダーランド	林 幸男	入選
90	平穩戦介護成	福田 幸	入選
91	ラブ・ロマンス	菅本 典子	入選
92	さんぼ道	菅本 典子	入選

立休 出品数46（市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞9・入選21）			
No.	タイトル	氏名	賞
1	黒罅彫文器	國澤 啓	市美展準大賞
2	フェイス 猛暑日	西尾 司	市美展賞
3	私たちは何処へ行くのかー高専の私たちが藍を作る理由	徳山高専美術部・伝統工芸部	市美展賞
4	双龍	村上 恵	市美展賞
5	土の華	角本 福美	市美展賞
6	蓮文鉢	山根 公子	市美展賞
7	波しぶき	中西 正	奨励賞
8	面取多面壺	藤井 輝昭	奨励賞
9	驚き	川中 和好	奨励賞
10	優雅	近森 整	奨励賞

No.	タイトル	氏名	賞
11	喜喜双鶏美	弘中 敬	奨励賞
12	京の華	石光 順一	奨励賞
13	萩焼壺	松本 るい子	奨励賞
14	萩焼壺	松本 るい子	奨励賞
15	萩焼壺	松本 憲夫	奨励賞
16	初めての萩焼	野島 勝利	入選
17	光と砂のしらべ	藤井 滋人	入選
18	麦秋	藤井 滋人	入選
19	五重の塔	河本 肇	入選
20	貝紋黒化粧鉢	蔵田 省三	入選
21	華器	吉村 静治	入選
22	修行中の珍客	渡邊 修	入選
23	木工細工画 早春のかほり	清木 則行	入選
24	次元女	石村 健志	入選
25	五峰の松山	畑尾 史郎	入選
26	カボチャを食った?	川中 和好	入選
27	創造の魚	中村 達雄	入選
28	発掘1, 2	河谷 真知子	入選
29	つる首	角屋敷 公子	入選
30	淡水釉龍耳壺	角屋敷 公子	入選
31	二色象嵌鉢	萱嶋 通孝	入選
32	魔除像	萱嶋 通孝	入選
33	周ニャンカップ	小林 和子	入選
34	初冬・北の噴火口	山本 恵美子	入選
35	燻黒花器 (流るる)	角本 福美	入選
36	萩茶碗	松本 憲夫	入選

書 出品数42 (市美展大賞1・市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞8・入選18)			
No.	タイトル	氏名	賞
1	雲	藤井 宗男	市美展大賞
2	氷島	樽本 充弘	市美展準大賞
3	謝荘詩	田畑 美代子	市美展賞
4	白秋の詩	中田 和恵	市美展賞
5	篆刻九顆	江藤 マサ子	市美展賞
6	幾山河	手嶋 孝子	市美展賞
7	露	田本 啓子	市美展賞
8	四體帖	櫛部 敦子	奨励賞
9	うつりゆく	藤末 廣子	奨励賞
10	加藤楸邨の句	村田 美由紀	奨励賞
11	亜細亜紀 荒野より	橋本 美代子	奨励賞
12	晶子のうた	中津井 和子	奨励賞
13	芭蕉三句	関口 正美	奨励賞
14	茂吉のうた	山本 伸	奨励賞
15	散氏盤	坂本 明代	奨励賞
16	四字熟語	久田 幸範	入選
17	陶淵明詩	管田 志乃芙	入選
18	雁塔聖教序	森脇 萬雄	入選
19	張九齡	杉本 晴美	入選
20	造像記	松本 勝	入選
21	李白詩	吉崎 直子	入選
22	佐藤春夫詩「浴泉消息」	藤井 由希子	入選
23	内藤鳴雪の句	有田 博子	入選

No.	タイトル	氏名	賞
24	海雀	前田 富子	入選
25	木簡臨書	小川 司	入選
26	元永本古今集節臨	市川 チヅ子	入選
27	良寛と李白の詩	田中 寿代	入選
28	李夢陽詩	岩政 邦枝	入選
29	藤村の詩	田中 美智恵	入選
30	クスノキ	高田 幸宏	入選
31	梓弓	藤岡 真実子	入選
32	何中詩句	田原 禎子	入選
33	初志貫徹	田中 康彦	入選

写真 出品数134 (市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞28・入選70)			
No.	タイトル	氏名	賞
1	飛ぶ	福原 一輝	市美展準大賞
2	勇壯な舞	友森 久子	市美展賞
3	スプラッシュ	吉田 和夫	市美展賞
4	春に遊ぶ	内山 和則	市美展賞
5	冬の造形	新井 正義	市美展賞
6	黄金色に輝いて	藤波 恭一	市美展賞
7	鼻あそび	重弘 佳子	奨励賞
8	周南の夜明け	宮崎 紀与二	奨励賞
9	恋紅葉	吉原 順子	奨励賞
10	突然の来訪者	立野 智	奨励賞
11	今時スマホでしょ!	出口 幸男	奨励賞
12	梅香る場所	原田 睦子	奨励賞
13	有終の輝き	吉光 佑二	奨励賞
14	海を渡り終りの神事	藤本 武昭	奨励賞
15	夏の風物詩	福田 和紀	奨励賞
16	妖艶	久原 靖史	奨励賞
17	静寂	久原 靖史	奨励賞
18	二本の桜	内山 和則	奨励賞
19	祭りだ、祭りだ	山本 由里子	奨励賞
20	仮面ライダーX??	浜田 美智江	奨励賞
21	王冠まであと0.01秒	中野 由香里	奨励賞
22	いにしへ思ふ	益本 誠二	奨励賞
23	風薫るひととき	濱田 雄輝	奨励賞
24	どうしても気になる瞬間	福屋 重臣	奨励賞
25	幻想の世界へ	藤井 晃希	奨励賞
26	舞	大樂 里江	奨励賞
27	彩に想いをよせて	西田 あや子	奨励賞
28	桜舞う晴れ舞台	飯田 友一	奨励賞
29	出番前	柳 美智子	奨励賞
30	光溢れて	宮本 和幸	奨励賞
31	湖面に降る	辰川 泰朗	奨励賞
32	年男を担ぐ	辰川 泰朗	奨励賞
33	大船山冬景	溝口 智司	奨励賞
34	気合	藤波 恭一	奨励賞
35	嬉々	重弘 佳子	入選
36	桜の散歩道	檜野皮 毅	入選
37	5月の風	宮崎 紀与二	入選
38	整列	吉原 順子	入選
39	鯉泳ぐ	友森 久子	入選

No.	タイトル	氏名	賞
40	天空の舞 オーロラ	小堀 弘	入選
41	満開	岩本 武夫	入選
42	火星大接近	立野 智	入選
43	雄雄しく	立野 昌子	入選
44	路地の隙間	河村 志津代	入選
45	雨の城下町	河村 志津代	入選
46	徳山工場夜景	大田 美和子	入選
47	一人ぼっち	出口 幸男	入選
48	粹	大木 洋子	入選
49	老漁師	大木 洋子	入選
50	氷点下25°	数井 基幸	入選
51	わたしのこいのぼり	東島 晋	入選
52	落葉の池	東島 晋	入選
53	男	福原 一輝	入選
54	ひとやすみ	竹林 賢二	入選
55	産卵場を求めて	竹林 賢二	入選
56	朝霧に咲く	吉光 佑二	入選
57	深秋に浸る	深町 勝信	入選
58	回顧	兼重 要	入選
59	秋光	藤本 武昭	入選
60	一夜の宿	大野 伸夫	入選
61	美味しいね!	大野 伸夫	入選
62	94歳の再会	片山 一美	入選
63	夕映え	福田 和紀	入選
64	霧幻妖桜囀	古谷 純平	入選
65	可愛い妖怪	中村 光雄	入選
66	羅漢の夜明	河口 芳久	入選
67	ふれあい	吉田 眞純	入選
68	蓮からのダイビング	吉田 眞純	入選
69	Before After	桑田 昭二	入選
70	エキサイティングボートレース徳山	海田 成隆	入選
71	つかめ!!	浅原 透	入選
72	そんなに見てもあげないよ	花田 美知子	入選
73	透過光 繁栄の夢のあと	中村 正哉	入選
74	嬉々たる	秋本 ナオミ	入選
75	共存・共栄を願う	松田 文夫	入選
76	冬の恵み (とっくり大根)	松田 文夫	入選
77	長月の灯	浜田 美智江	入選
78	長旅の一休み	多川 康男	入選
79	祇園でふたり	益本 誠二	入選
80	もうひとりの私	沖原 光星	入選
81	人生	沖原 光星	入選
82	魚切の滝「中須」	平岡 正夫	入選
83	水音のやすらぎ	濱田 雄輝	入選
84	これがリトルTokyo海蛸だ	福屋 重臣	入選
85	瞳の先に	藤井 晃希	入選
86	お遊び	町田 弘	入選
87	飛翔	町田 弘	入選
88	どんどへの念い	町田 敏子	入選
89	露の惑星	町田 敏子	入選
90	溪流に咲く	西田 あや子	入選
91	晩夏のひまわり畑	後藤田 稔	入選
92	季節の移ろい	後藤田 稔	入選
93	陽だまり	生島 鈴枝	入選

No.	タイトル	氏名	賞
94	天空のいたずら “くノ一雲”	戸倉 満	入選
95	出港を待つ	橋本 聡	入選
96	桜吹雪	橋本 聡	入選
97	夕暮れの川面	飯田 友一	入選
98	ぼくが、あげる	田中 章夫	入選
99	憩い	永尾 博美	入選
100	秋の棚田	手嶋 文雄	入選
101	木造	柳 信義	入選
102	秋彩	柳 美智子	入選
103	出番終了	手島 信之	入選
104	怒涛に舞う	溝口 智司	入選

《全体総括》

周南市美術展の審査に昨年に引き続き参加させていただきました。出品点数は若干減ったようですが、ジャンルや表現の多様さは昨年と同様で、周南市の創作活動の裾野の広さ、厚みを感じます。審査が難しくもあり楽しくもありました。

平面部門の準大賞「睡蓮」はタイトルからモネの作品や清楚な風情が想起されますが、ここに描かれるのは自分の眼で捉え、切り取った一情景です。

立体部門の準大賞「黒罅彫文器」は一見シンプルで派手さはありませんが、造形がしつかりしており実力を感じさせる作品です。表面にある罅が表情豊かで見飽きることはありません。

書部門はやや線の硬さが見られた漢字作品に対し、漢字仮名交じりの書に優れたものが見られたようです。書は白と黒の造形芸術といわれますが、大賞「雲」は、言葉と情景、造形が見事に調和し、準大賞「氷島」も文字のバランスや造形が見事です。

写真部門の準大賞「飛ぶ」は、祭姿の男たちが海に飛び込む一瞬の情景を切り取った作品。非常にシンプルですが、三人三様の人の形の面白さ、構図の巧みさを見る人を作品の中に引き込んでいきます。作者自身が楽しんでいることが伝わる作品です。

出品作の中にはグループでの参加もありました。一つの作品としてのコンセプト、完成度が評価の分かれ目となりました。

出品者の年齢層が高くなっていると聞きましたが、周南市美術展では出品者の年齢制限がないので若い方にも積極的に参加いただき、もっと大型の作品や冒険的な作品が増えれば刺激となってさらに活性化を図れるのではないかと思います。

(審査員長 中村 美幸)

《各部門総括》

平面の部

油絵、日本画、南画、水彩画、デッサン、押し花、ポジャギ等、バラエティに富んだ素材を含む平面の部は、戸惑うこともあります。反面新鮮な気持ちで審査を進めました。審査にあたっては作品の完成度や技量の高さだけでなく、作者の視点、作者の想いを伝える表現力の有無をポイントに見ていきました。創作に真摯に向き合っている作品が多い中、選外を選ぶのは至難の業でした。

上位入賞者はやはり実力のある作品が選ばれました。準大賞の「睡蓮」は、同じく自然の情景を捉えた他の作品に比べ技量の面ではまだ伸びしろがあると思いますが、作者の捉えた情景が目の前に広がり、見る度に絵の世界に深く入り込んでいく不思議な魅力があります。

「記憶の森」は物語を感じさせる作品で少女の強い意志をもった眼差しが印象的です。奨励賞の「生まれてきてありがとう」は赤ん坊の表情に思わず微笑んでしまいます。作者の喜びが見る人に素直に伝わる表現力をもっています。

(中村 美幸)

立体の部

数年ぶりに立体部門の審査をさせていただきました。この度も陶芸による器が多くみられましたが、その他は木、金属、樹脂、布、蔓等多様な素材があり、造形表現としても幅広い作品がありました。審査にあたって「工芸」ではなく「立体」部門ということに気を配りながら進めていきました。

審査をして毎回感じるのですが、一定の技術力をもってはいても、作者らしい表現というものを感じにくい作品、逆に表現したい想いは感じられてもそれを表現する造形力、技術力に弱さを感じる作品があります。自分の作品を改めてみてほしいと思います。

この度の出品作品の中であって、市美展準大賞に選ばれた「黒罅彫文器」は造形的にも完成度の高さを感じました。市美展賞の「双龍」は自然の植物を素材にし見事に龍を表現しているところ等思わず見入ってしまいました。同じく市美展賞の「フェイス猛暑日」はこの度の新しい試みを、立体としてこれからどう展開されるかを楽しみにしています。

(村中 保彦)

書の部

作品から筆者の息づかいが聞こえ、作品の向こうに筆者の姿が見える。そんな思いに包まれながらの審査でした。いずれの作品も真摯に取り組まれた誠意あふれるもので、書はまずかくあるべしとの思いを強くいたしました。

作品は、漢字、仮名、漢字仮名交じり、篆刻、刻字と多岐にわたっていました。規格も長条幅、全紙、半切ほか様々であり、また縦使い、横使い等、制作意図に合わせて実に多彩な制作がなされ、改めて書の表現領域の広さを感じた次第です。

その中でも今回特徴的であったのは、漢字仮名交じりの作品に優れたものが目立ったことです。多くは現代文を素材としますので、自らの意図を投影しやすいこともありますが、紙面構成の工夫を含め、筆の開閉を利かせた生氣横溢の表現は魅力的でした。また、漢字や仮名に見られるオーソドックスな手法も大変好感が持たれました。

来年も多くの作品が寄せられることを期待しています。

(信廣 友江)

写真の部

写真は他の部門と比べて、カメラさえあれば誰でも参加できるという点で間口の広いアートだと思います。しかし逆にいえば、撮影からプリント仕上げまでかなり厳密に取り組まないと「作品」とは呼べないといえます。構図も被写体の選び方も素晴らしいのに、プリントの仕上げが汚かったり画素数が足りなかったりする応募作品がかなりあり、「もったいないなあ」と感じました。

入賞作品はどれも確かな技術に裏打ちされた秀逸なもので、絞り込むのにはずいぶん迷いました。写真の命は、一瞬を切り取る点にあると思いますが、それは「その先」を読む力があるかどうかということです。そしてその想像する力が技術を越えたときに初めて素晴らしい作品が生まれます。作品「飛ぶ」は計算されて撮ったのか偶然このような構図になったのかわかりませんが、見る人をぐいっと画面に引き込むシンプルな力強さと躍動感を伴っており、遠近感や画面構成など非の打ちどころがないものでした。

来年も審査員を思わず唖らせてしまうような作品をぜひお待ちしております。

(船尾 修)

《作品講評》

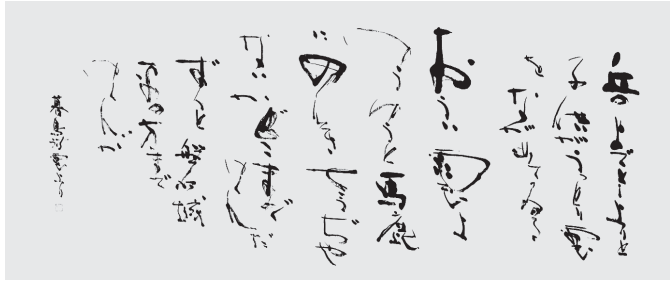
市美展大賞 書

「雲」

藤井 宗男

4部門の中で書作品が、大賞を頂けたことは、大変うれしく思います。

審査に当り、1点1点を見る中で、山村暮鳥の詩“雲”は、何か引きつけるものがありました。この作品は、漢字仮名交



じり書で、誰でもが読めるものです。この題材をいかに芸術性に導くかが大切なことです。まず、詩の内容を十分に把握することです。前半3行は、やさしいタッチで表現し、ほのぼの感を出し、後半は、詩の内容に合わせ、躍動感を出す為に、墨色に変化を持たせ、線質（自分の持っている技術を最小限におさえた線）が工夫されています。

また、全体構成につきましては、行の整理（上下・左右の空間処理）・文字における平行感覚（文字中の空間・角度等）が、緻密に計算されたことにより、品を与え、完成度の高い作品に仕上げられています。

周南市は、県下でも漢字仮名交じり書の歴史のある土地がらで、今回その軌跡に感心しました。

(角 廣行)

市美展準大賞 平面

「睡蓮」

小西 美佐江

平面部門の大賞候補として自然を描写した3点の作品が挙がりました。それぞれが作者の視点や構力・表現技術に納得させる力を持ち、選出に迷いました。

中でもこの「睡蓮」は構成もしっかり考えられており、細密な描写もさることながら、見れば見るほど不思議に思えてくる魅力的な作品です。

手前に睡蓮の葉と小さな花がバランス良く横に広がっており、その後方を緩やかな窪みをつけた蓮の葉が小さな群れを作って伸びています。奥の暗い叢には弱々しく光が当たっています。こうした植物たちが作り出す遠近感が見る者を自然とこの絵画独特の空間へと導いていきます。



もう一度手前の水面を見返すと、そこには逆さに映った蓮の葉と小さな空の異空間があり、突然それまでのバランス感覚が揺らぐような軽い驚きを覚えます。慌てて目をそらすと再び最初にとらえた睡蓮の葉の広がりの世界に戻るのです。作者は「これは睡蓮池の一隅を描いた作品です。それ以上でも以下でもありません。あとは見る人がお好きなように」と思っているかもしれません・・・

(小田 善郎)

市美展準大賞 立体
こくひびちようもんき
「黒罅彫文器」

國澤 啓

いろいろな材種、レベルの高い多くの立体応募作品の中で、この作品については、大らかに端正な作品の形と、存在感を高く評価しました。

ロクロ成形による口縁のわずかな端反りや厚み、器体下部の膨らみや張り、円錐形の胴に規則正しく掘り込まれた溝等、細部まで気遣いがうかがえ、微妙な深みのある立体的作品となっています。

高さ、口径共に30cm位の大きさであり、下から10cm程の高さのところ、底部と胴部の面の区切りの線を設けて、形体を引き締め、重量感あるものとして印象強くしています。

胴体部分にある抑制的な、多くの縦溝の彫込みと、その上に施された黒釉の表面の複雑なひび割れの工夫が、この作品を特徴づけています。

(吉賀 将夫)



市美展準大賞 書
ひょうとう
「氷島」

樽本 充弘

まず、作品を書く場合、“どのように表現し、他の人にどんな感動を与えるか”が大切なことです。

一般的には、白と黒の造形構成の中で自己主張をしますが、この作品は、画面に素直に感性をぶつけることで、躍動感を出し、形式にとらわれないことで、新鮮さを感じることが出来ました。もちろん、線質や空間等も工夫されたと思いますが、一番の魅力は、迫力です。この長所を大切にして、今後の創作活動を続けて下さい。

(角 廣行)



市美展準大賞 写真

「飛ぶ」

福原 一輝

海に勢いよく飛び込む祭男達。構成としてはシンプルですが、ある一瞬を決定的な構図でまとめあげた力量が目をつけた作品です。

深い海から明るい空への対角線にそった明暗の使い方が、色の少ない単調になりがちな画面に立体感と遠近感をもたせ、水平線を少し傾けることによって自然をよりダイナミックに表現しています。その整った背景のなかで、男達が絶妙なタイミングで絶妙な位置に写し止められています。飛び込むポーズもそれぞれに面白く、右端に残った脚は体が見切れることによってジャンプの高さや彼らの爆発させた気持ちを想像させ、見る側をクスリと笑わせてくれます。

また、レンズを向ける方向によって物事に対する関わり方が変わって見えるのも写真の面白い要素です。この作品では表情ではなくあえて後ろ姿をねらうことで、観客側ではない視点で祭りの躍動を感じることができます。

(若松 布美子)



周南市美術展運営委員会 委員

- 委員長 西崎 博史 (周南文化協会 会長)
- 有國 美恵子 (周南市連合婦人会 副会長)
- 河村 純一郎 (洋画家)
- 原田 洋子 (人権擁護委員)
- 藤本 満俊 (陶芸家、周南文化協会陶芸連盟 会長)
- 有田 順一 (周南市美術博物館 館長)

